

白亜紀O A E 期に出現した底生有孔虫は太古の記憶を残しているか?: Chilostomella における例

Does benthic foraminifera remember ancient life habitat ? : Exemplified from genus Chilostomella

北里 洋 [1]

Hiroshi Kitazato[1]

[1] 海洋研究開発機構・IFREE

[1] IFREE, JAMSTEC

深海に生息する底生有孔虫のなかで、Chilostomella ovoidea はほかの有孔虫とは著しく異なった生態を示す。

- 1) 酸素が欠乏する還元層に生息する。
- 2) 沈降有機物を摂取せず、泥食あるいはバクテリア食である。
- 3) 成長速度が著しく低く、おそらく数年の寿命がある。
- 4) 遺伝的な多様性が低い。

これらの性質は、酸素が欠乏し、新鮮な有機物のない環境で、エネルギーレベルを低く保って、長生きするという、腐食生態系に適応した生態を反映しているように見える。Chilostomella の仲間は、白亜紀中期 Albian に進化し、出現したことが知られている。この時期は、海洋が成層して、酸素欠乏で有機物に富む泥が堆積した環境にあった。まさに、腐食生態系に適した時期であった。Chilostomella の生態を見ると、腐食生態系が卓越した時期に生まれ、その性質をそのまま保っていたと解釈してもおかしくない。「太古の記憶」を残した生物なのかもしれない。